

# 東京鰐陵

発行 ● 東京鰐陵会  
 発行所 ● 東京都渋谷区神山町4-14  
 全日本テレビサービス㈱  
 総務室内番03-481-7611  
 編集 ● 東京鰐陵編集委員会

## ごあいさつ

会長 生江 義男 (70回生)

この度、富沢さん(1回生)のあとをうけて、東京鰐陵会の会長に推された。いつも思うことだが、石中、石高の卒業生も五十余回を越える現在、「ひとけた」台の卒業生など、いわば、神話の時代であろう。それが、若い世代との交代を希望したが、できなかった。しかし、高橋良君(15回生)を中心に、若い人びとが中心になって、会を運営してくれるので、しばらく、会長職をひき受けることにした。会員諸兄のご協力をあおぐ次第である。



文をものしたが、幸運にも、私は石中に学び、また、母校の教師として、七年間(内三年は中国戦野に出征)勤めさせていただいた。

そのご恩返しにも、同窓会のため、微力を尽したい、と念願している。そのため、会員諸兄も、東京鰐陵会に対していろいろと注文をもって参加してほしい。

こんどの「会報」も、そうした場を活発にする。よすががあつてと願っている。

考えてみると、私たちが人生を歩む上に、なにか、「リズム」があり、その「リズム」の共鳴が、人生を深めている。

東京鰐陵会こそ、若き日に学んだ石中・石高の、共通した青春のリズムであり、私たちの生の原点のひとつといえよう。

会員諸兄のご健勝をお祈りしながら、会報発刊を、共どもに喜びたい、と思う。

「石中(高)讃歌」と題して拙

## 祝辞

宮城県石巻高等学校校長 熊谷 一男



東京鰐陵会の皆様には、益々ご健勝にてご精進のこととお喜び申し上げます。

会員の皆様には、平素から母校愛と後輩の慈しみに燃えて物心両面に渡つてのご援助とお力添えをいただきまして、お陰様で母校も尚一層の飛躍と益々の発展を歩み続けております。誠に同慶に堪

えないところであります。

この度、東京鰐陵会では、会員相互の親睦をより一層深め、更に発見の「偉大な意志」と歴史と伝統を展すべく、ここに第一回の会報「東京鰐陵」を発刊する運びとなりましたことは、誠に記念すべき事であり慶賀に堪えません。

昨年の東京鰐陵会総会にお招きをいただき、挨拶を申しあげた機会に思惟しました時にも話を致しましたが、母校も今年で創立六十周年を迎え、同窓会員数(全日制・定時制含む)もいまや一五、二〇名に及び地域社会はもとよほり、全国各地と国際的にも大きな活躍をいただいております。誠に誇るべきこととあります。

懐かしい母校に近代施設を備え、一部生まれ変わった足もある訳ですが、いまだ旧蹟堂が図書館としてその面影を残しており、また二五メートルプールが体育と部活動で

使用されているところで、後輩諸君は、整備された環境で先輩諸兄の「偉大な意志」と歴史と伝統の中に「真実」「自律」「友愛」の精神を受け継いで、学習に部活動に真摯に取り組んでいらっしゃることであります。これも備えに皆様方のご支援の賜と厚く御礼を申しあげさせていただきます。

母校を支えている柱は何と云つても同窓生であります。同窓生の方々が常に緊密な連絡をとり、熱い心の繋がりを持つことこそ母校発展の基盤が培われるものと信じています。

同じ学び舎に道を求め、密近で友と語り合った同窓生の皆さんが、一層の親睦を深められ、各々の場において全力を投入され、さらなる活躍と発展されることをお祈り申し上げます。



祝辞 松本 仁 (21回生)

会報「東京鰐陵」発刊、おめでとうございます。小生、本部署局長を担つて早や7年目に成り、その間、梅山荘・紙パルプ会館2回、そして青山会館と過去4回東京に参りました。その都度、大きく豊かに盛大に東京鰐陵会が運営されているのを拝見し慶賀に存しております。

遠く関西鰐陵会(昭和63年度は岡山県倉敷市で開催、観光として瀬戸大橋も見学)から東京として仙石鰐陵会(昭和63年度は新しく出来たターミナルホテルで、地元では、浦谷・河内町・河北町・女川・鳴瀬・矢本等と年々その支部会の隆盛には目を見張るものがあります。

本部署も、当番回生をするようになってから(24回生をトップに29・22・25・21・23・28・32・34・35・38・27・26とつづき)本年度で14回目、主管回生は31回生でグランドホテルを会場にこれまた素晴らしい集いとなりました。

どうしてこうも「鰐陵」生は集うのか、参集するのか、団結するのかと、そのガクリコウの語感に重厚さを味わたり、陸の孤島インノマキがための、アンチ中央・青葉城下になだれ入るのムードが醸成しているのかとつねづね思っている次第であります。

昭和63年度の事務局の仕事は5年ぶりに新会員名簿を装訂も新しく発刊すること、恒例の会報「鰐陵・31号」の出版で、現在その作業に大わらわの状態であります。

平成5年、石巻高等学校は古稱を迎えます。70周年の記念すべき年にあたります。母校では、そろそろその準備と事業に入らんとしているところ、先輩・同輩・後輩の諸兄の格段のご協力とご援助を切望する次第であります。

鰐陵は水邊です。

北上川の流れと太平洋の青さは昔と同じです。昔々様のご健闘・ご活躍を祈念し、東京鰐陵会の益々の発展を願い、お祝いのことばといたします。



## 鰐陵会本部だより

鰐陵同窓会事務局長 松本 仁 (21回生)

又、意を強くしているところで、初代会長、山形又右衛門氏(2回生)、二代故伊藤一二氏(1回生)、三代武藤三郎氏(6回生)のあとをお引受け、四代目会長として四期目(77年余)を迎えようとしています。その間、関西鰐陵会にも、東京鰐陵会にも、そして宮城県下の各支部会にも臨席し、つぶさにその健康をふりを見ままして感激一入のものも、いつも感じて居るところです。

母校も数年後、古稱を迎えようとしています。昔々の益々のご発展を期待いたしますと共、母校石巻高等学校へのよきアドバイザータラんことを切望してお祝いのごとばといたします。

京鰐陵会が運営されているのを拝見し慶賀に存しております。

遠く関西鰐陵会(昭和63年度は岡山県倉敷市で開催、観光として瀬戸大橋も見学)から東京として仙石鰐陵会(昭和63年度は新しく出来たターミナルホテルで、地元では、浦谷・河内町・河北町・女川・鳴瀬・矢本等と年々その支部会の隆盛には目を見張るものがあります。

本部署も、当番回生をするようになってから(24回生をトップに29・22・25・21・23・28・32・34・35・38・27・26とつづき)本年度で14回目、主管回生は31回生でグランドホテルを会場にこれまた素晴らしい集いとなりました。

どうしてこうも「鰐陵」生は集うのか、参集するのか、団結するのかと、そのガクリコウの語感に重厚さを味わたり、陸の孤島インノマキがための、アンチ中央・青葉城下になだれ入るのムードが醸成しているのかとつねづね思っている次第であります。

昭和63年度の事務局の仕事は5年ぶりに新会員名簿を装訂も新しく発刊すること、恒例の会報「鰐陵・31号」の出版で、現在その作業に大わらわの状態であります。

平成5年、石巻高等学校は古稱を迎えます。70周年の記念すべき年にあたります。母校では、そろそろその準備と事業に入らんとしているところ、先輩・同輩・後輩の諸兄の格段のご協力とご援助を切望する次第であります。

鰐陵は水邊です。

北上川の流れと太平洋の青さは昔と同じです。昔々様のご健闘・ご活躍を祈念し、東京鰐陵会の益々の発展を願い、お祝いのことばといたします。

## 祝会報東京鰐陵創刊 鰐陵同窓会

事務局 〒986 宮城県石巻市大手町3番15号 宮城県石巻高等学校内  
 TEL. 0225-93-8022

- 役員●
- |      |        |
|------|--------|
| 事務局長 | 若生 金郎  |
| 副会長  | 中塩善治郎  |
| 会長   | 佐藤 信男  |
| 副会長  | 高城 孝   |
| 副会長  | 藤原 悟   |
| 副会長  | 佐々木 誠  |
| 副会長  | 浅野 亨二  |
| 副会長  | 松本 仁   |
| 副会長  | 熊谷 一男  |
| 副会長  | 橋浦 勝見  |
| 副会長  | 末永 正男  |
| 副会長  | 富沢 裕   |
| 副会長  | 山形又右衛門 |
| 副会長  | 武藤 三郎  |
| 副会長  | 鈴木 寿男  |





に舞っていました。そこでは6年に1回の式年祭という大祭をやっているわけですが、毎年のお祭りもあるわけです。その時には子供に舞わせるため、小学生や中学生に夏休み中に教えてやらせることになっていて、せっかく通塾の村が多くて、せつかく子供に教えることも大きくなる。と村を出てしまふ所があるんです。それが困るんですね。でも、子供たちに教えていることには受け継がれますがね。それで学校の教科として課外授業でもよいし、クラブ活動でもいいから、それをやったほうがいいですよ、と私は勧めています。実際にそういう活動をしている学校がポツポツ全国にあるんです。

福原 教育委員会でもそういうことに力を入れているようですよ。

先生 それは数年前に文部省から地方に通知がいて、地方の民俗芸能のある所はそれを教科にとり入れることが望ましいと指導したようです。それでいい

### 四大主流占める神楽の実態 バラエティーに富んだ日本の芸能



福原 神楽の種類は日本に幾つ位あるんですか。

先生 一番古いのが里女舞いの里女神楽。これはそもそもアメノウズメノミコト以来の、それ以前からの伝統を持つ神懸りの舞いなんです。次に里女が湯立する湯立神楽。湯立はそもそも非常に古くからあるんだが、それを音楽一歌をまじえてやるという音楽の要素を加えてやる湯立神楽というものがあります。第3に採り物神楽といって剣とか弓矢とか鈴を持って舞う神楽です。それらには神様が付くという依代の信仰が古くからあり、これは鈴が元なんです。鈴の以前は柱、最も古くは男柱です。それに対してはつこんだものもありました。へつこんだものにも神が宿るといわれているんです。男柱から鈴とか剣とか弓矢とか、それから櫓、幣束、

芸能がある所は、じゃ、おれの所では教科にとり入れようというわけにとり入れていて。新潟県の鏡子舞いとか山形県の島海山の鏡のヒヤマ音楽であるとか、奄美大島の八月踊りや名瀬の学校でとり入れた、また福島の鳥居のある学校では古くからホーサイ踊りを、これは通達以前に教科にとり入れて、運動会です。運動会といえ、若手思の剣舞も早くから子供達に教えて、60人というのが運動会に出て今でもやっています。

芸能がある所は、じゃ、おれの所では教科にとり入れようというわけにとり入れていて。新潟県の鏡子舞いとか山形県の島海山の鏡のヒヤマ音楽であるとか、奄美大島の八月踊りや名瀬の学校でとり入れた、また福島の鳥居のある学校では古くからホーサイ踊りを、これは通達以前に教科にとり入れて、運動会です。運動会といえ、若手思の剣舞も早くから子供達に教えて、60人というのが運動会に出て今でもやっています。

そういうものが出たわけだが、神楽が依るそういうものを探して舞う、それが採り物神楽です。第4に、シシ神楽。これはおシシを神様にするんです。権現様と称して、神様がやどるものとシシを回す。これは元来大陸から来たもので、伎楽や舞楽にもシシ舞いがあります。大陸から悪魔払いという信仰を伴って来たのですから、日本に来てもこれを神様にして、シシを回しながら悪魔払いをする。その持ち芸というのか、それ今今の山伏神楽があるわけですよ。山伏神楽とか香楽とかいってもいい。それが一つの種類。同じシシ舞いでも伊勢の大神楽と称して、おシシを回して悪魔払いをして歩く、その人達の持ち芸は曲芸です。皿回しをしてみたり狂言を演じてみたり、そういうものを神楽にする。信仰

先生 いや、先に言ったように神楽の他に田楽系統、田に関する芸能もあるし、風流という大変いろんな種類のものがあるし、また採り物、祝福芸、語り物からきている万歳とか、それらはそもそも神様の託宣、神様が里女に移って神の言葉を宣うという。その言葉がやがて語り物にもずっと系統をひいていくわけです。大陸から来たものは舞台の芸能だから、それで能歌舞伎、人形芝居、それから延年というお寺の芸能があります。そういう舞台芸能というものは、大陸から来たものそのままだけで、そのある部分を利用して、日本の気持を舞台に表現する芸能がこれまたたくさんあるわけです。このように大変バラエティーに富んだ日本の芸能を見たいと思つて水年携わつてきたわけですよ。

福原 吉田 三宅 本日は先生、大変すばらしいお話をありがとうございました。

(文責：福原委員)

先生 別物なんです。これは五穀の豊穡を祈るもので、田楽とか田遊びとか田植え踊りとか、あるいは雄子田なんというものもあるが、それらは田に関する芸能です。それから大きいのは風流というやつです。風流な仕度をして踊るもので、つめてふりゆうといつていいます。これにはまた、たくさん種類があるんですよ。念仏踊りとか小歌踊りとかシシ舞いとか、あるいは太鼓踊りとか。

福原 先生は神楽だけでなく、芸能全体の研究をなさったわけですね。

先生 無論そうです。

福原 我々は本田先生イコールお神楽と結びつけるもんですから、今日のお話をお伺いしてびっくりしました。

本田安次先生の略歴  
福島県本宮町出身。昭和4年、早稲田大学英文科卒業。同年8月から24年3月まで20年間英語担当教諭として田石中、石巻高に勤務された。この間、石巻地方をはじめ東北各地に伝わる神楽、狂言等の民俗芸能、華大に於ける研究に取り組まれた。華大に移られて後も調査研究が続き、主な著書として『陸前浜の法印神楽』(山伏神楽・香楽)、『正月神楽の研究』(延年)など。

35年3月文学博士。46年河北文化賞。48年芸術選奨文部大臣賞。51年勲三等瑞宝章。そして59年石巻市の市民功労者として表彰された。現在82歳。昨年10月、インド旅行されるなど更に研鑽を重ねておられる。



## 菅野総合病院

附属 人工腎臓透析センター

## 東武中央病院

菅野

寿 (15回生)

〒351 埼玉県和光市本町28  
☎(0484) 64-5111 (大代表)

学校法人 日本大学 評議員  
日本大学医学部 同窓会 副会長  
社団法人 アフ리카協会 理事



対し、感謝しています。  
三、63年5月13日、新事務所(全日本テレビサービス株式会社)の会議室において理事会を開催、出席者二十四名。

⑨第9回総会の決算報告

⑧第9回総会後の運営状況  
⑩本会の今後の運営について  
の三項について討議の結果、可決されました。

特に⑩項においては、会員結集の核としての会報の発行について意見が提案され、研究委員として17回の福原氏に依頼することになりました。福原氏を中心に17回高橋・20回後藤・21回菅野・22回吉田・27回三宅・30回首藤・31回阿部典・阿部進の各氏が順次会合し、具体的な構成を検討していただきました。

四、8月25日、福原氏よりの会報の名称・誌面構成・記事項目・広告などについての研究報告を基に、高橋事務局長を中心に検討し、理事会への提案用報告書について打ち合わせしました。

五、9月8日、青山荘において「会報発行の件」で理事会を開催、出席者二十一名。福原氏よりの報告に基づき、①会報名、②誌面構成、③予算などについて討議、採決されました。

しかし、①会報の恒久的な発行(一年一回の子定)を期するに当たり、会報の無料配布の案に對し有利化の検討、②広告提供者の負担の軽減、などについて意見が出されました。この件につきましては今後の研究課題として残されました。(会員諸兄のご提案を期待しています)

六、この9月8日の理事会の決定に基づき、福原氏・後藤氏を中心に事務局員を動員して、原稿執筆の依頼、広告出稿の依頼など実務作業を開始しました。

東京鰐陵会会報「東京鰐陵」

第1号を手にした会員各位の皆様、如何ですか。各位の投稿、それから特に31回生以降の同窓生の実務作業のボランティア活動へのご参加を期待、募集しています。

本年は総会開催年です。第10回という記念すべき総会でありますので、会員各位多数の参加をお願いします。例年同様11月を予定しています。特に、各期の世話人の方には、会員の動向について事務局までお知らせください。

東京鰐陵会第9回



鰐陵と藤ノ木古墳

石野 博信(24回生)

四十年ほど前、東北の一角、鰐山の周辺を走りまわっていた人間が、いま、法隆寺の横で、藤ノ木古墳の調査をしているのは不思議なことである。

藤ノ木古墳は、江戸時代には駿山(みささきやま)とよばれていた。山(みささきやま)の意味などがある。「大きな丘」の意味などがある。鰐陵は、きつと大きな丘の意味だろうか。こいつければ、中平高城時代を「藤ノ木」で、いま「鰐」を添え、という様かもしれない。

十月八日、石野の墓が開いた。その瞬間、軟手も沸かなくなった。石室の中は、ひたすら作業が続いていた。妙な話だが、私はそのとき、中はからっぽでもない、と。思った。六月のワイバースコープによる事前調査で、棺内には多

寄稿文

人生の長さときさ

富澤 毅(1回生)

人生七十有九年を願うよう、長いようでもあり、短いようでもある。年老いながら従って人生があつたという間に過ぎ去って、あつたかと思ふのである。しかしこの人生の中に忘れ得ぬ喜びや悲しみが胸に溢れるばかり一杯つまっている。忘れ去ったものも数限り無いであろう。光陰矢の如し、と言われるように月日の経つのも速い。また若い頃は一日が長いと感じたこともしばしばあつた。一体人生の長さとか速さとは何であろう。時計や地球の回転と共に等速で変化する物理的時間(1)と心理的時間(2)とを感ずる時間(3)と呼び、吾々の心で感ずる時間を心理的時間(2)と呼ぶことにす

れば、両時間の間に過ぎの閑寂が成立するものとする。心理的時間(1)、この微分時間 $\Delta t$ 、 $\Delta t$ を考えると、 $\Delta t \ll T$ 、 $\Delta t \ll T$ 、ここで $a$ と $b$ は微小時間 $\Delta t$ とある定数とすれば、物理的微小時間 $\Delta t$ に對應する心理的微小時間 $\Delta t'$ は物理的時間 $\Delta t$ に反比例することがわかる。これは年老い(1)大となるに従って心理的微小時間 $\Delta t'$ 、たとえは心に感ずる一日の長さ(2)は年齢(1)に反比例して短くなることを示す。たとえば七十五歳の時の一日は一五歳の時の一日の1/5の長さを感じられることになる。したがってそれだけ月日の経つのが速く感じられるのである。人生の時間は有限であり、老人には残余の時間も少ない。この短い人生の残余の時間に対し、心理的時間 $\Delta t'$ をいかに長くするかを考えなければならぬ

多くの御郡長があるとは分かっていないのに、よからずもいろいろ思つた。石野の墓をあけていく最中に、青なでんでくられていく場面に何とも想像した。そのことを思うと、たとえ棺の中に何もなくても、無事に墓が開いただけで十分だということだと思ふ。実際には、千三百年ほど前に遠くから運ばれた様々な品々が、藤ノ木古墳に集められていた。昭和の世におきましては、いま調査しなければ、水のために金属製品が日々腐つていってしまう。藤ノ木古墳は、六世紀後半の円墳である。やがてすくすくは、聖徳太子が斑鳩宮をつくり、法隆寺が建てられる。内側は真赤な世界である。棺の内側は真赤に塗られている。底の方に十センチほど水がたまって、水は清水のように澄んでいて、水の中に入つたらと泥をかぶった品々が一面に見える。真先に眼についたのは、壁にたてかけられていた短冊(かざり)の一つである。地金は青銅で金ノツキ

い。上記の仮説の法則は心理学で設定される刺激に対する感度の法則と関連して考察されるから、生活の中における心の感受性を高く保持することが肝要となる。また人生の日々を受動的立場だけでなく、積極的に、能動的な態度で、常に新鮮に心に感ずるような事象を作り上げて行くように心掛けることが重要である。そして老人に限らず人生のすべての時に、現在の時間を大切にしなければならぬことを教えている。(粗雑な概念的法則の提案をお許し下さい)

韓国との出会い

龜山慶一(16回生)

私と韓国との出会いは、昭和48年東京教育大学日韓総合調査団が編成されて私もその一員に加えられ、その年の8月に訪韓したのが最初だった。石巻生まれ石巻で育つた私はそれまでずっと漁業関係に関心をもち漁村における民間伝承を調査していたので、この機会に漁業関係を通じて日本の民俗文化を比較してみようという気になった。それから十五、六年、毎年一年に3度も韓国に通いつづけて魚浜を巡った。戦争中に教育を受けた私たちは当時の朝鮮に対する正しい知識が与えられなかったせいもあって、韓国に対して偏見を抱きながらなので、これを機会に韓国を正しく理解しようという別の考えもあった。

今年3月15日午後10時半ごろ、大田という都市のある横断歩道を志南大朴柱弘教授と歩行中、左から来た乗走車にはねられて朴教授は即死、私は重傷を負いながらも幸い生命はとりとめた。しかし韓国の民俗学者の中で私は私とともにも気が合



27Hのチャンピオンコース  
金華山コース、船形コース、松島コース

名譽会員/明谷正治、吉田豊

宮城カントリークラブ

宮城県遠田郡涌谷町小塚字桜清水ニ16 TEL (0229)43-3511

本と雑誌

株式会社 初宝堂

代表取締役 菅野七三郎(51回生)  
東京都目黒区青葉台一ノ六ノ三九青葉台パークハイウエイ一階  
電話(03)3461-1473(六)〇八五三

い、学問上の仕事の上でも尊敬していただけた教授を失った悲しみは今も大きい。

忠南大付属病院に入院中、お見舞いをいただいた忠南大のあ

る先生の「鶴岡が好きだった電山先生が今度の交通事故で待園を嫌にならないうでござい」と言われたことがいまでも忘れられない。(高橋良彦著)

昭和十二年卒業生(10回生)は十勝会をつくってその事務局は石巻にあります。石巻を中心として毎年各種の会合をひらき、家族同伴の旅行会、還暦祝の会、戦死者追悼の慰霊碑建立など、多彩な活動ぶりです。

昭和十二年卒業生(10回生)は十勝会をつくってその事務局は石巻にあります。石巻を中心として毎年各種の会合をひらき、家族同伴の旅行会、還暦祝の会、戦死者追悼の慰霊碑建立など、多彩な活動ぶりです。

1 回生のこと

富澤 毅(1回生) 母校の宮城県石巻中学校が創立されたのは大正二年(一九一三)の春であり、その夏九月一日に関東大震災が起ったのであるが、あれ以来六十五年となる。第1回生は昭和三年二月卒業であるから、卒業六〇年以上となり、大部分高寿を過ぎたことだろう。第1回生は中学の創立を一年以上も待って入学した人も相当数いるから、八十歳以上となる人もいらずである。皆いい老人になっている。二十世紀を生きて来たという感じが深い。この先の一二年生をきき伸びて二十一世紀に入れるのは幾人となるか。それについても少しは近いのである。今年には卒業六十周年の記念年であるから、会合を持ちたいものと思いをかきたが、学会出来る人が少ないということで中止の巴むなさに至り誠に残念である。しかし元気で生きていければ必ず再会出来ると思ひ、老友の御健勝を祈るばかりである。

このごろ「人間距離の心得」ということをよく聞く。にんげんきよりでなくて「じんかんきより」である。人間距離に對し人間距離という。自動車には安全運転のための車間距離がきめられていて、先行车に何か事故があっても、一定の距離をとって走っておれば、急停車して、事故を未然に防ぐことができる。

同時に、自分と他人との間との距離を考えると、人は言語、動作に氣をつけることである。対人関係では相手方と自分の距離を考へる。視線、先輩一先輩一後輩、上司一同僚一下僚との間柄を考へて、こぼれを避び、行動を注意するということである。これをひらけて人間関係に近づいてみる。

シシゴボールの世界人に聞いたのだが、青年の国際会議でよく日本代表が注意されているという。国歌の斉唱や国旗の掲揚に起立しないからである。日本では学校教育が社会風潮のせいから、国歌や国旗に対する尊敬の念がなくなかぬのである。そのためにポヤッとしているのだから、国際化の時代である。海外にでかける若い同志生活者にはよく注意してもらいたいと思ふ。(日本青年少年研究所理事)



白沢 純 (旧姓石母田)

東京近辺の十回生はその数も少なく、故伊野野健治君の葬儀のとき芝罘上寺に参集。また十勝会の卒業四十周年の記念大会を東京で開き、桜井先生御夫妻を囲んで青山会館に宴をほったこともありました。それから十有余年。

昨年の春、増上寺で伊野野君の法要、十月には石巻で桜井先生の一周忌を執り行いました。東京近郊の同級生は石巻の十勝会を基点にして、その消息を伝えあっているのが現状であります。私ことになりませんが、私の兄弟は第二回、5回、14回の石中卒業です。

しかも東京近郊に住んでおりましたので、早くから須谷先輩やとくに桐野学園の生江先生はじめ同窓の諸先生の親しい御交際をいただいております。私自身、演劇、テレビの小道具提供という仕事にたづさわり、裏方生活も三十年余になります。劇場やテレビのスタジオ、講演会などで思いがけなく同窓の方にお目にかかることもあります。歌舞伎、能、文楽の小道具を製作してきた関係から、昭和49年政宗公の墓所増築から発掘された埋蔵品のうち同窓第一号と思われる鉛筆の復元を依頼され、62年春やつと仙台博物館に陳列されることになりました。仙台藩とのかわりあいとは芝居の「先代萩」の小道具とは別にまたひとつ深まってきたようです。(高橋良彦著)

昭和63年13回生東京地区クラス会を4月26日(火曜日)原宿「松よし」にて開催致しました。毎回ながら日時、会場の設定は白石道義君(日産火災前社長)のご盡力にて決定。午後6時より開始。東京地区在住者16名に室内状を送付致しましたが、年齢も65歳に達した我がクラスメイトも体の不調の人もおり、出席者の回答9名、仙台より特別参加者1名を加え10名の参加にてつるも話題も豊富で非常に会場も盛り上がりを見せました。

十 回生のこと

昭和十二年卒業生(10回生)は十勝会をつくってその事務局は石巻にあります。石巻を中心として毎年各種の会合をひらき、家族同伴の旅行会、還暦祝の会、戦死者追悼の慰霊碑建立など、多彩な活動ぶりです。

昭和十二年卒業生(10回生)は十勝会をつくってその事務局は石巻にあります。石巻を中心として毎年各種の会合をひらき、家族同伴の旅行会、還暦祝の会、戦死者追悼の慰霊碑建立など、多彩な活動ぶりです。

昭和十二年卒業生(10回生)は十勝会をつくってその事務局は石巻にあります。石巻を中心として毎年各種の会合をひらき、家族同伴の旅行会、還暦祝の会、戦死者追悼の慰霊碑建立など、多彩な活動ぶりです。

昭和十二年卒業生(10回生)は十勝会をつくってその事務局は石巻にあります。石巻を中心として毎年各種の会合をひらき、家族同伴の旅行会、還暦祝の会、戦死者追悼の慰霊碑建立など、多彩な活動ぶりです。

15 回生近況報告

高橋 良(15回生) 在京15回生(関東一円、一名大阪転出)は16名、第一の人生が終り、第二、第三の人生を歩んでいる状況です。兼任幹事の富岡君が大阪に邸宅を構えてからは同級生間の連絡が悪くなりました。そこで、今回は近況を本人からしていただきます。

○遺囑第七郎君：「人生すべて夢か幻か。昭和20年ビルマインパール作戦に参加(注、仙台幼年学校、陸士卒)戦後、縁あって、日通、に35年勤務。只今は年金生活。息子二人。長男に孫(女)が出生、次男は花嫁さん募集中。年と共に色々思いが湧いて来ます。」

○菅野 寿君：「元氣。東武中央病院と菅野総合病院の二つで地域医療に専念しています。日大評議員、医学部同窓会副会長(3期目)で忙しい日々を過ごしています。」

○西条 弘君：「防衛施設庁を退官、日本航空規格KKに5年。お付き合いいストレス解消にゴルフの練習に励んでいます。体は快調。」

人間距離の心得

羽谷正造(3回生) 在京勝会委員は、米谷雅雄、穴戸宗英それに私の三人だったが、米谷兄は先年死亡し、いま

在京勝会委員は、米谷雅雄、穴戸宗英それに私の三人だったが、米谷兄は先年死亡し、いま

在京勝会委員は、米谷雅雄、穴戸宗英それに私の三人だったが、米谷兄は先年死亡し、いま

在京勝会委員は、米谷雅雄、穴戸宗英それに私の三人だったが、米谷兄は先年死亡し、いま

13 回生たより

浅野新一郎(13回生) 昭和63年13回生東京地区クラス会を4月26日(火曜日)原宿「松よし」にて開催致しました。毎回ながら日時、会場の設定は白石道義君(日産火災前社長)のご盡力にて決定。午後6時より開始。東京地区在住者16名に室内状を送付致しましたが、年齢も65歳に達した我がクラスメイトも体の不調の人もおり、出席者の回答9名、仙台より特別参加者1名を加え10名の参加にてつるも話題も豊富で非常に会場も盛り上がりを見せました。

当日の出席者氏名(順不同、敬称略)

伊藤富藏・高橋 剛・長井邦夫・橋本徳男・白石道義・福島治男・福田修三・安田文郎・渡辺 淳(仙台より参加)

63年10月5日 浅野新一郎記

追 悼

当日の話題の中で途中中校のクラスメイトも本人の同意を得れば今後の同級生会に参加の招請を満場一致にて決まし、その2名の追加を得、6月1日現在13回生東京地区在住者は18名となりました。

当日の話題の中で途中中校のクラスメイトも本人の同意を得れば今後の同級生会に参加の招請を満場一致にて決まし、その2名の追加を得、6月1日現在13回生東京地区在住者は18名となりました。

当日の話題の中で途中中校のクラスメイトも本人の同意を得れば今後の同級生会に参加の招請を満場一致にて決まし、その2名の追加を得、6月1日現在13回生東京地区在住者は18名となりました。

当日の話題の中で途中中校のクラスメイトも本人の同意を得れば今後の同級生会に参加の招請を満場一致にて決まし、その2名の追加を得、6月1日現在13回生東京地区在住者は18名となりました。



羽谷正造(3回生)

在京勝会委員は、米谷雅雄、穴戸宗英それに私の三人だったが、米谷兄は先年死亡し、いま

在京勝会委員は、米谷雅雄、穴戸宗英それに私の三人だったが、米谷兄は先年死亡し、いま

在京勝会委員は、米谷雅雄、穴戸宗英それに私の三人だったが、米谷兄は先年死亡し、いま

在京勝会委員は、米谷雅雄、穴戸宗英それに私の三人だったが、米谷兄は先年死亡し、いま

総合建設業

# 目黒工業株式会社

代表取締役 柿島 勲  
取締役相談役 浅野新二郎 (13回生)

〒153 東京都目黒区祐天寺2丁目14番9号  
TEL. (03)719-1331

演劇・舞踊・テレビ・余興

# 藤浪小道具株式会社

本社 〒111 東京都台東区浅草6-2-6  
TEL03(874)5171(代表) FAX03(874)4807  
越谷営業所 〒343 埼玉県越谷市蒲生2-11  
TEL0489(88)0721(代表) FAX0489(88)0842

装飾・催事の総合企画・制作

# 株式会社 藤浪アート・センター

〒111 東京都台東区浅草6-2-6 藤浪小道具ビル1F  
TEL03(874)5171(代表)

代表取締役 白沢 純(旧姓石母田) 第十回生

四十年振りに乗ると馬の大きさが違い、とまどいました。未だ落馬なし。再び馬キチになりそうです。

○佐藤 哲夫君：「みかさ商会という不動産業と自動車販売の代理店をやっています。目黒藤沼部駅より20米。平日は9時17時、日祭日は13時17時までです。03-722-4141に電話して下さい」

○富岡 行雄君：「62年12月、45年のサラリーマン生活に終止符をうち、大阪に家を建てて暗黒雨流の年金生活に入りました。自叙伝を執筆しています。月一回のゴルフ。予定なしの小旅行。夫婦二人で仲良く自由にくらしています」

○長崎 孝治君：「右足後患のため、59年1月で太陽神戸銀行を止め、以後、名港を求め毎年通西二ヶ月間、関東甲信越の温泉地帯をめぐっています。娘二人は嫁ぎ現在孫二人、今月中に三人になる予定です」

○堀井 毅君：「運輸省航空局を退官してから日本航空の子会社のOFCで航空関係の仕事をしていました。一人息子が千葉から近くに越えて来ました。孫二人（男6年生、女4年生）ですがそろそろチヂミ離れの年で淋しいです」

○松川 信君：「播磨お元氣のご様子何よりです。小生日々是好日。を心掛けて毎日を送っています。皆様の益々の活躍をお祈り致します」

○高橋 良三：「NHK退職後、NHK関連団体の現在の会社の世話になってます。長女に孫二人（女4年生、男2年生）。長男に孫一人（男1歳半）現在、長男夫婦一人のところに下宿しています。東京鰐陵会の事務局と事務局長を先年から押しつけれましたが、優秀な後輩諸兄がボランティアで良く面倒を見てくれてます。事務局長をやりたい方は何時でも譲りますのでお申し出下さい」

今年3月15日の夜、大田という都市で、さる横断歩道を忠南大村桂弘教授と歩行中、無走車にはねられて被刺死が即死、幸い私は命をとりとめた。二か月半韓国の病院で入院加療、5月末に帰国し、東京の病院に二か月入院。どうやら仕事につくことが出来るようになった。入院中にお寄せいただいた同窓生諸兄のご高配とご芳志に本誌をお借りして厚くお礼を申し上げます。



同期生便り

亀山慶一（16回生）

在京鰐陵会名簿16回生の項には11名が記載されているが、庄千君が亡くなられたそうである。その10名も一堂に全する機会はまだなくもない。予てに運命も過ぎていくのだから時間的には昔に比べれば余裕はある筈だが、なかなか音頭取りがない。私がたまに全っているのは2名だけである。3年前から即期に住んでい

る。人の温かい心と、空や海の青さに癒やされて住み心地は上々。冬でも暖房はいらないとあって女房はえらく気に入っている。ただし真夏の暑さと湿気には簡単に馴染めない。あたり前のことだが、人それぞれ六十有余年も生きていく。さまざまなことにめぐり合うものだ。石巻で生まれ、石巻で育った私は学生ころから漁民文化に関心を寄せてきたが、こゝ十五、六年米韓国の漁民文化との比較にひかれて韓国通いしている。

人生60年になんなんとして、なお奔走することの多い日々ですが、よくぞこれまでといった感もないではありません。所詮の性は地獄。あの世も地獄。なら地獄に安住して見ようかと考えるのも凡俗の処世法でしょうか。



佐山正司

一男一女いずれも独身。まだまだ頑強にや、というところ

退職後、家内と二人で年金暮らしです。16回生も1/4の25人も亡くなり、時の流れに昔時、感無量のころ頃です。生き永らえることも思っています。心算は「世の中の重荷降して量程かな」 子規



松川義一

退職後、風が吹くまで「量程かな」を望みつつ

群馬県太田市で耳鼻科の開業医をしています。三大悪業の一人を自認していますが、長男長女は素直に育っています。良縁があつたらよろしく。



佐藤寛太郎



中村潤二郎

16回生も同窓会の中では年齢的にも古い方になってしまったが、昔元気にやっています。一會報を発行する」と聞いて一も二もなく賛成したが、実務に当る後輩諸兄の苦勞が思いやられる。情態ながら私なりに協力させて頂くつもりだが、会の發達の発展を祈念して止まな

東京鰐陵17会第5回總會報告 (昭和63年6月) 福原義治郎 (17回生) 一九八八年(昭和63年)5月16日月、次のような諸兄が、熱海の徳園ホテルに集まり、終始なごやかに近況報告から人生談議へと酒盃が交わされ、饗宴にも熱海の娘さんたちとのカラオケ饗宴となり、日頃のストレスをしばし忘れ去る一時を過ごしました。二次会は部屋で酒盃を重ねながら、鰐陵時代の回顧談に夜を徹して談笑しました。還暦を終えたといつても意気軒昂な参集の諸兄に、鰐陵17会の健実な体質が問われました。

正に桐朋学園校長としての容姿も重厚に、語す言葉に教育への情熱がにじむ。鰐陵時代の回顧にも長く覚えていたナアと感心させられる。3月に「おはよう生徒諸君」というユニークな著書を胸朋教育研究所から出版された。なかなか味のあつた本です。一〇〇〇円を同封して千葉先生に頼むと郵送料がタダになると思っています。

世界にその名が知られたる「組三」の専務として正に貫禄充分、数珠も終始圧倒されつ放しでした。六十にして財閥への野望を抱く態度には敬服の限りである。話を聞いているうちに自然と心が豊かになってくるのも不思議である。

鰐陵時代を懐かしみ、東名高速道路をひたすら自動車に乗って駆け参じたということ。頭髪以外は鰐陵時代そのままの容姿にも、株式上場の優良企業として発展する小糸製作所の参与として、照明機能の最新開発に意欲を燃やす情熱には頭が下が

翌日、金持ちさんと毛利君の案内で小糸製作所を見学させていただきました。高度な研究開発と技術産業に毛利君の実績が実像として感じられました。鰐陵17会の友ここに在りとの実感でした。

永年勤続の表彰状を受けて日本鋼管を離れ、安田信託銀行の財務相談課に調査役として財テクに活躍とのことです。赤井の望郷を語る話にも、誠意のこもる人生への意欲が感じられ鰐陵時代の友情が胸中に蘇生する。

新宿で石巻の懐かしい味を!! 鰐陵会員の宴会(5名様以上)には原酒サービス。浦霞 兼元 兼富 ●石巻・女川・塩釜直送のふる里料理 (一例) 生かき ほや 笹かま さつま揚げ 松葉鱈 酒藏樽 新宿店 社長 佐藤 孝 ☎(03)208-9772 高田馬場本店 ☎208-9771 神田南口店 ☎254-0045 池袋店 ☎971-5730

株式会社 西友 常務取締役 浅野 貞夫 (26回生) 堀内 文夫 (33回生) 株式会社 西友環境開発 取締役 豊島 博 (21回生)

ERROR: stackunderflow  
OFFENDING COMMAND: ~

STACK: